

幼稚園における視聴覚教育

岩 村 幾 代

(一) 幼稚園における視聴覚教育、という研究テーマをとりあげた理由

1. 幼稚園教育を効果あらしめるために、言葉だけでは理解しにくいことを、視聴覚的な手段で指導して、保育の効果をあげる。
2. 視聴覚的教材教具を使って、どんな場合に、どのような方法で利用したらよいかを研究する。

右の二つの目的のもとに、このテーマをとりあげて研究を始めた。

(二) 当園でとりあげた視聴覚教育の範囲

視聴覚的教育といってもその範囲は非常に広いが、私共は印刷物、先生の話、直接経験

などを除いた他の視聴覚に訴えるもの、例えばラジオ、人形劇、レコード、紙芝居、スライド、写真など多くある中で、特に紙芝居、スライド、ラジオ放送について研究を進めることとし、又見る機会に恵まれることから、テレビ聴視についても併せて研究することとした。

(三) 紙芝居、スライドの評価について

子供達に喜ばれる紙芝居は、費用が少なくてすむこと、手軽にできて内容も豊富であるなど利点が多く、古くから幼稚園教育にとり入れられているが、その取扱については、ただ単に指導者の都合で見せたり、子供達の

要求で見せることが多かった。私共はそのことを反省し、紙芝居が子供に及ぼす影響の大きいことを考えて、少なくとも幼稚園で取扱われる紙芝居は、内容に応じた目的をもって教育的に使用しなければならないものだと、紙芝居を評価分類することにした。

紙芝居と同じく無条件に幼稚園にとり入れられて重要な位置を占めているスライドについても、やはり紙芝居と同じくその取扱われる場合は、誕生会とか子供会などレクリエーションとして扱われているが、私共は紙芝居について反省したことと同じ疑問をもって、その内容を検討することにした。

1. 紙芝居、スライドの一つ一つについて、どういう目的で幼児に見せるかを検討し
2. 保育内容に結びつくもの
3. 行事に結びつくもの

と大きく分け、更に保育内容のどの分野に關係があるか、たのしませるにしても、何時頃扱う内容のものであるかなど、初心者でもすぐわかるように評価をし、内容も一読してわかるようにまとめた。これで個々の紙芝居、スライドについて、内容の難易さや、一

年間の教育計画のどの場面に利用できるものかとか、どの時期に扱うものかということがわかってきたので、幼児の発達段階に基き、教育計画に関連づけて、左のような評価表を製作した。

(取扱)		う月)	
題名	枚数	目的	内容

分類した紙芝居は、出し入れに便利な、保存によいケースを作り、背表紙に月別に色わけした紙をはり題名をかいた。

スライドも紙芝居と同じ方法で整理し、抽出しの中をケースの大きさに区切って並べ、台本もすぐ出せるようにした。

このように紙芝居、スライドを評価分類したことにより、私共の労力や時間が省けて取扱いが楽になり、子供達にも生活に即した紙芝居を見せることができ、興味を高め理解度を一層深めることができるようになった。併し取扱いが楽になったことに心を安んじていては保育の効果はあがらないので、なおよく内容を検討し把握してから子供達の前に立つよう心がけることはもとより、見せ方、話し

方の態度、音声についても絶えず私共はお互に批評しあつて研究を進めた。そのような時、皆さんが自分の問題として真剣にとりくみ、どんなきびしい批評にもめげず、励まし合つて苦しみの中にも暖かい情愛を感じ乍ら研究を進めることができ、指導者としての自覚を高めることができたのは、私達がとりあげた研究テーマに期待しなかった大きな収穫であつた。

(四) スライドの自作

紙芝居、スライドを評価してみても、現在既製されているものは、物語とか、子供の日常生活に起つてくるお話を題材にしたものが多く、それも単に興味中心にした娯楽的なものが多いことを感じた。勿論幼児の教育は遊びを通して行われるものであるが、これらの既製スライドは、指導者が何らかの意図をもつて扱わないかぎり、単に幼児をたのませるだけで終つてしまうという結論が出た。それで私達は、子供達の情懷を高め、言語指導に役立てるというだけでなく、直接に教育の効果をあげる為の材料に使うスライドを自作することを考えた。

毎日の教育の中で私達はよく、この場にこんな資料があつたらどんなに効果があるだろうと思うが、先ずスライドを自作するについても、そういうことを話し合った上で、一番初めに、毎日の生活の中で是非兼ねなければならぬ面の資料を作ることとした。

製作にあつて留意した点をあげてみると

1. 現実的に具体的に場面を写すこと。自分と同じような子供が登場することによって画面にとけこみ理解度を増すことを予想して人物は園児を使うこととした。場所も興味と関心をひく為に幼児に身近かな所を選び、躰けようという面を端的に表現するように要点を大きくはつきりと写した。

2. 意図するところによつては幼児の自然な様子をうつし出した。撮影は上手な方に頼んだり、又私共も写してみたが、なれないうちは背景などに気をとられて単なる生活記録写真になつてしまったこともあるが、自然な形の中に躰ける面をとらえることも効果的である。

3. スライドを見ることによつて、考えたり反省したりして、説明をしなくても理解できるように画面自体に物語らせるように工夫

した。理解を助ける方法として、良い場面と悪い場面を比較することを多く取った。

自作したスライドは、番号と簡単な説明を記入したケースに入れ、時に応じて使えるように整理した。

費用は一本七五〇円、二〇こま写せるので割合に手軽な教材だと思いが、指導者として大事なことは、殊にこういう教材を使う場合、教材に使われないようにするということだと私達は反省した。作ったものを上手に生かして使うようにしなければならないと思う。

遊びの後片付けができていなかった時、後片付けのスライドをうつして見せたことで、子供達が反省し、それからは何時も画面がぼんぼんくるかのように、上手に後片付けをするようになった。

(五) 放送の聴かせ方

子供達が皆んな一しよに、しかも強制的でなくたのしいラジオをきくには、指導者としてどのようなことを心がけるべきか考えてみた。

1. 「番組の選択」

聴取前に機関誌によって検討し、内容に応

じて教育計画と関連づけたり、又、全然目的をもたず、ただ子供達をたのしい気分にするものというように目標をもってきかせた。

2. 「環境」

保育室全体をたのしいのびのびとした雰囲気にするよう心がけ、ラジオの位置、子供達の位置についても落ちついてきける場所を選んだ、受信機については特に気をつけたが、音質、音量を適度に調節することは最も大切なことと思う。

3. 「指導」

幼児が身体的にも心理的にも、良い状態でラジオをきかれるように、聴取前の休息を充分とるようにした。暗幕をしめて室内を暗くして休息をとるようにしたら、落ちついて長い時間休息がとれ効果があった。放送直前には長い時間をかけずに興味をおこさせるような取扱いをすることを心がけた。

聴取中はなるべく放送にまかせきって共に聴くという立場をとるようにしたが、内容によっては助言したり、身ぶり手ぶりをして興味をひくようにした。併し一番大切なことは聴かせようとあせらずに、のびのびと自由に

たのしくきかせることだと思つた。

聴取後の指導は殊にむづかしく、喜んできいた子供達の気分をこわさないように、そして尙、放送聴取の目標に応じて取扱いをしなければならぬが、内容をくどく繰り返したり、お説教をくつつけたりすることのないように注意した。

4. 「記録」

聴取後記録をとって、次の放送をよりよく聴かせる為の資料にした。

以上のことを心にとめて、その場に応じて放送を毎日の教育の中にとり入れてきたが、入園当初ラジオを見向きもしなかった子供達が熱心にきいている様子を見ると、うれしきで一ぱいになる。

(六) テレビ聴視について

小学校にテレビがあるので「幼児向き番組」や「小学校低学年向き」のものを見せているが、子供達はラジオ以上の興味をもって聴視している。視覚と聴覚に訴えることから非常に具体的な経験が得られて教育的にも効果があることは申す迄もないと思う、その一例として、「おむすびころりん」のお話がテレビ

で流されたので、一組だけ見て、他の一組は同じお話の紙芝居を見せ、他の一組は先生のお話で聴かせただけで、どの程度お話が理解できたか家庭と連絡して調査した。

	先生が話を する	紙芝居	テレビ
内容を かんた 部分的に わかつた	15	17	25
全くわか らない	2	4	2

結果はこういうことになり、テレビを見た組は一番生れ月のおせい組であったにもかかわらず、よく理解できたことから、テレビによる効果が如何に大きいか知ることができた。

併し何といってもテレビは歴史が浅く、流されるものにも問題があると思う。テキストによって番組を選んで見せても興味がなくて、二十分という時間をもてあますこともしばしばである。しかし、見ることで聴くことが同時に出来、動きがあるので子供にとってテレビの時間は大へんたのしいものとなっている。そしてそれをより効果的にするものは、聴視前後聴視中の指導者の取扱いである

新 発 売 保 育 の た め の

か る た

定 価 50 円 ・ 〒 16 円

従来の市販のかるたと異なり、幼児のすなおな本性をまもり、その生活を豊かに育て上げるために、細心の注意を払い製作いたしました。このようなかるたが発売されることが、長い間多くの先生方、おかあさま方より望まれておりました。ぜひお子さま方にお伝え下さいようお願い申し上げます。

特 徴

文は幼児の単純にして発動的な語句を選び、絵は喜びに満ち溢れた明るい感じを映し出し、なお数枚の絵を幼児が貼紙を用いて未完の部分完成させるように新工夫いたしました。

ことは、放送の場合と同じである。これはなかなかむづかしい問題であり興味のあることから、今後も研究を続けたいと思う。
以上は本園が昭和二十九年度の東京都研究

指定幼稚園として、昭和三十年六月二十日に公開発表し、当園に於いて実施保育、そして研究発表を行ったものである。
(東京・南山幼稚園)

株 式 会 社
フ レ ー ベ ル 館